

令和5年度

深谷市議会の概要



(畠山重忠公之像)

深谷市議会

第1 深谷市の概要

1 深谷市の歴史

深谷市には、古くから人々が生活をしてきた場所として、数多くの遺跡があります。荒川右岸の江南台地上には、約1万3千年前の後期旧石器時代の遺跡である白草遺跡があり、多数の細石刃や彫刻刀形石器が出土しています。

縄文時代になると、台地上に数多くの遺跡が出現し、土器を用いて定住するようになります。縄文時代後期頃には、人々の居住地は低地へと移っていきます。続く弥生時代は、妻沼低地に上敷免遺跡や四十坂遺跡などの有名な遺跡があります。

古墳時代になると人口は増大し、妻沼低地などを中心に多くの集落が営まれます。また数多くの古墳が造られ、木の本古墳群や白山古墳群、小前田古墳群、黒田古墳群などの群集墳も造られます。荒川右岸の鹿島古墳群は終末期の群集墳で、県指定史跡になっています。

奈良時代には、深谷市の東部は幡羅郡、西部は榛沢郡、南部は男衾郡となります。市東部の幡羅遺跡は幡羅郡役所跡で、市西部の熊野・中宿遺跡は榛沢郡役所跡、市南部の百済木遺跡は豪族居宅であり男衾郡の郡司クラスの居宅とみられます。埼玉県内には当時15郡ありましたが、郡役所跡が確認されているのは上記の2箇所だけで、古代の北武蔵のみならず地方社会を考える上で非常に重要な地域です。

平安時代末から鎌倉時代には、畠山次郎重忠、岡部六弥太忠澄、新開荒次郎実重、人見四郎光行などの武蔵武士が活躍しました。畠山重忠は源平合戦の立役者で、鎌倉幕府の重臣として知られています。当時の主要道である鎌倉街道上道の跡が旧川本町域から旧花園町域に残っています。

室町時代から戦国時代にかけて、深谷の地は関東管領と古河公方の抗争や、北条・上杉・武田氏の争いに巻き込まれていきます。深谷城はその渦中に、深谷上杉氏によって造られた大規模な城です。平地に造られた所謂平城ですが、自然の低湿地を利用した難攻不落の城でした。江戸時代の初めに廃城となるまで、200年以上にわたり深谷の中心であり続けました。

江戸時代には、深谷の地の多くは天領（幕府直轄領）となりました。

た。また、岡部には岡部藩があり、陣屋が構えられました。そして、深谷は中山道の宿場町として発展しました。深谷宿の町並み絵図などが残されており、当時の繁栄ぶりを知ることができます。また、中瀬は、利根川の河岸場で、物資流通の拠点として深谷宿を凌ぐ程の賑わいを見せました。江戸時代の中頃からは地場産業の窯業や養蚕などが発展し、宿場には日を定めて市が立つようになりました。深谷宿や中瀬河岸を中心に江戸の文化が広まり、七夕や八坂神社の祭礼が行われ、村々では万作踊りや獅子舞が盛んになりました。

明治時代になると文明開化の波に大きな影響を受けました。中でも鉄道の開通は大きな出来事でした。上敷免には日本煉瓦株式会社の工場が造られ、日本近代産業の発展に大きな貢献を果たしました。この会社の設立に深く関わったのが郷土の偉人、渋沢栄一翁です。日本近代実業界の最高指導者と仰がれる渋沢栄一翁は、社会公共事業にも大きな功績を挙げ、昭和6年（1931）になくなるまで、生まれ故郷の血洗島を愛し続けました。

その後、戦争や昭和の大合併、平成の大合併などを経て現在に到ります。産業は農業を始めとして商・工業などがバランスのとれた発展を見せています。

2 市制施行

市町村合併促進法（昭和28年施行）に基づき、昭和30年1月1日深谷町を中心として近隣4村（藤沢村、幡羅村、明戸村、大寄村）を合併して全国で461番目、埼玉県下で18番目の市制を施行し、同年10月1日岡部町の一部（大字宿根、伊勢方）を、昭和48年4月1日には、豊里村を編入し県北市町村の核として整備が進められてきました。

平成18年1月1日深谷市、岡部町、川本町及び花園町が合併し、新「深谷市」が誕生しました。

3 市の位置

平成18年1月1日、深谷市、岡部町、川本町、花園町がひとつになり誕生した新「深谷市」は、埼玉県北西部に位置し東京都心から70km圏にあり、東は熊谷市に、南は嵐山町、寄居町に、西は美里町、本庄市に、北は群馬県の伊勢崎市、太田市に接しています。また、北部は利根川水系の低地で、南部は秩父山地から流れ出た荒川が扇状台地を形成する平坦な地形となっています。

交通の面では、関越自動車道、国道17号線・同深谷バイパス・上武国道、国道140号線・同バイパス、国道254号線などがあり、広域間の基幹的役割を果たす道路として機能しています。また、地域の玄関口として関越自動車道花園インターチェンジが設置されているほか、嵐山小川、本庄児玉のインターチェンジと寄居スマートインターチェンジに近接しています。また、鉄道はJR高崎線、秩父鉄道の2路線において駅を有するとともに、上越・北陸新幹線及びJR八高線が通過し、上越新幹線の熊谷駅と、本庄早稲田駅にも近接していることから、東京都心方面、上信越方面、秩父方面への交通の要衝となっています。



4 市勢 人口・世帯数・面積は、令和5年4月1日現在
産業別人口は、平成27年国勢調査

区 分		
人口		142,003人
世帯数		61,628世帯
面積		138.37km ²
都市形態		田園工業都市
市制施行		平成18年1月1日
産業別 人 口	第1次	7.7%
	第2次	28.9%
	第3次	57.8%
	分類不能	5.6%
特筆する産業		野菜・花卉

5 財政 令和5年度一般会計予算（当初） 単位：千円

区 分	金 額	構成比 (%)
1 市税	18,783,483	34.7%
2 地方譲与税	596,120	1.1%
3 利子割交付金	5,600	0.0%
4 配当割交付金	110,000	0.2%
5 株式等譲渡所得割交付金	55,100	0.1%
6 法人事業税交付金	174,700	0.3%
7 地方消費税交付金	3,064,000	5.7%
8 ゴルフ場利用税交付金	35,800	0.1%
9 環境性能割交付金	72,300	0.1%
10 地方特例交付金	109,700	0.2%
11 地方交付税	7,985,000	14.8%
12 交通安全対策特別交付金	19,977	0.0%
13 分担金及び負担金	623,756	1.2%
14 使用料及び手数料	348,964	0.6%
15 国庫支出金	9,086,601	16.8%
16 県支出金	4,420,516	8.2%
17 財産収入	701,684	1.3%
18 寄附金	422,090	0.8%
19 繰入金	2,945,328	5.4%
20 繰越金	800,000	1.5%
21 諸収入	983,056	1.8%
22 市債	2,727,600	5.0%
合 計	54,071,375	100.0%

○構成比は、表示単位未満を四捨五入しているため、合計と一致しない場合があります。

	区 分	金 額	構成比 (%)
目 的 別 （ 款 別 ）	1 議会費	300,246	0.6%
	2 総務費	5,110,172	9.5%
	3 民生費	23,349,672	43.2%
	4 衛生費	4,102,917	7.6%
	5 労働費	89,485	0.2%
	6 農林水産業費	813,324	1.5%
	7 商工費	1,390,816	2.6%
	8 土木費	6,819,122	12.6%
	9 消防費	2,366,668	4.4%
	10 教育費	6,349,609	11.7%
	11 公債費	3,309,344	6.1%
	12 予備費	70,000	0.1%
		合 計	54,071,375

	区 分	金 額	構成比 (%)
性 質 別	1 人件費	9,776,578	18.1%
	2 物件費	9,222,252	17.1%
	3 維持補修費	192,941	0.4%
	4 扶助費	15,687,030	29.0%
	5 補助費等	4,212,562	7.8%
	6 普通建設事業費	5,983,890	11.1%
	7 公債費	3,309,344	6.1%
	8 積立金	512,227	0.9%
	9 投資及び出資金	10,000	0.0%
	10 貸付金	110,955	0.2%
	11 繰出金	4,983,596	9.2%
	12 予備費	70,000	0.1%
		合 計	54,071,375

○構成比は、表示単位未満を四捨五入しているため、合計と一致しない場合があります。

6 職員数

令和5年4月1日現在

部 局 名	定 数	現員数
市 長 部 局	8 1 8	6 1 1
公 営 企 業 部 局	6 6	4 5
議 会 事 務 局	8	6
選 挙 管 理 委 員 会 事 務 局	2	3
監 査 委 員 事 務 局	3	2
公 平 委 員 会 事 務 局	2	1
固 定 資 産 評 価 審 査 委 員 会 事 務 局	1	1
農 業 委 員 会 事 務 局	1 0	9
教 育 委 員 会	1 8 4	1 6 3
消 防 本 部	2 5 4	2 2 7
大 里 広 域 市 町 村 圏 組 合		1 7
デ ジ タ ル 庁		1
合 計	1, 3 4 8	1, 0 8 6

第2 議会の概要

1 議員数

令和5年4月1日現在

条例数	現員数
24人	24人

2 現議員の任期

自 令和5年 5月 1日
至 令和9年 4月30日

3 議員構成

令和5年5月1日現在

党派別構成	公明党	3人
	日本共産党	2人
	れいわ新選組	1人
	無所属	18人
会派別構成	深谷同志会	12人
	深和会	2人
	公明党	3人
	日本共産党	2人
	元氣会	2人
	小林ミルク	2人
	無会派(れいわ新選組)	1人

4 年齢別構成

令和5年5月1日現在

年 齢	人 数	
40歳～49歳	5人	最年長 79歳 最年少 42歳 平均 61歳
50歳～59歳	6人	
60歳～69歳	6人	
70歳～79歳	7人	

5 当選回数別内訳

1回	2回	3回	4回	5回	6回	7回
8人	4人	4人	2人	3人	2人	1人

6 職業別内訳

会社役員	4人	政党役員	2人
農家	3人	会社員	4人
自営業	2人	市議会議員	6人
シンガーソングライター	1人	福祉施設経営	1人
団体役員	1人		

7 常任委員会（任期2年）

人数は条例数

総務委員会	8人	企画財政部、総務部、協働推進部、渋沢栄一政策推進部、市民生活部、秘書室、会計課、消防本部、選挙管理委員会、監査委員、公平委員会、固定資産評価審査委員会及び議会事務局の所管に関する事項並びに他の委員会の所管に属さない事項
福祉文教委員会	8人	福祉健康部、こども未来部及び教育委員会の所管に関する事項
産業建設委員会	8人	産業振興部、環境水道部、都市整備部、農業委員会の所管に関する事項

8 議会運営委員会（任期2年）

構 成 人 員	8人
選 出 方 法	各会派を代表する議員 各会派の所属議員数の比率（按分）により割り当て選出
委 員 の 改 選	各常任委員会委員の改選時に行う
開 会 日	招集日の7日前（このほか随時開催）

9 議会費（令和5年度）

300,246千円（構成比0.6%）

10 議員報酬等

平成19年5月1日施行

役 職 名	報 酬（月 額）
議 長	492,000円
副 議 長	428,000円
委 員 長	418,000円
議 員	403,000円

11 期末手当

6月	12月	合 計	備 考
220	220	440	加算率 20/100
<hr/> 100	<hr/> 100	<hr/> 100	

令和4年11月24日適用

令和4年11月24日施行

12 費用弁償

旅 費 (H18.1.1 施行)	日 当 宿泊料	3,000円 15,000円
---------------------	------------	-------------------

* 本会議及び委員会等出席の費用弁償は平成20年4月1日～廃止

13 政務活動費

月額 25,000円

14 議会の運営

① 発言の取扱いについて

一般質問の通告	議会運営委員会開会日の午前10時から土、日、祝日を除く議会2日目の正午まで *H22年3月定例会～
議案質疑の通告	通告制を規定しているが、現在は、その場で挙手により行っている。
討論の通告	
一般質問の回数制限	なし *H22年3月定例会～
一般質問の時間制限	30分以内（答弁時間を除く） *H22年3月定例会～

② 請願の取扱いについて

提出期限 ــــــــ 開会日の3日（土・日・祝日を除く）前まで
 審査方法 ــــــــ 委員会に付託

③ 予算・決算の審査方法（補正予算も含む）

当初予算：予算特別委員会に付託
 補正予算：各常任委員会に分割付託
 決算：決算特別委員会に付託

④ 本会議運営について（標準例）

- ・開会
- ・議案説明（2日間）
- ・議案質疑、委員会付託（2日間）
- ・委員会審査 1日1委員会（3日間）
- ・一般質問（3日間）
- ・委員会報告、質疑、討論、採決
- ・閉会

⑤ 執行部の出席

本会議	部長職以上
常任委員会	副市長、教育長（福祉文教委員会）、企画財政部長、総務部長、秘書室長、協働推進部長、関係部長・次長・課長

15 令和4年度中の本会議開催状況

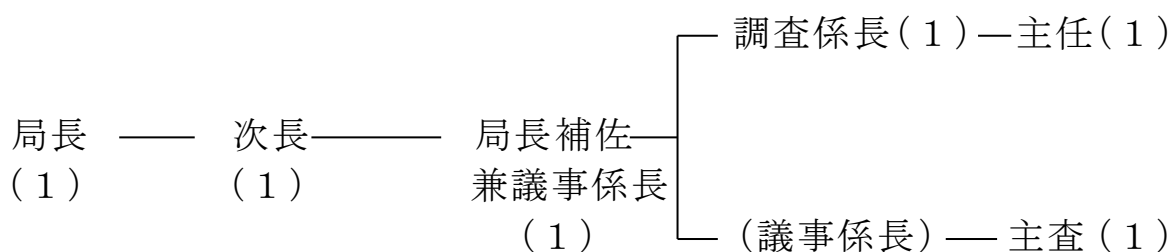
(令和4年4月1日～令和5年3月31日)

定例会・臨時会	会期日数	会議日数
第2回定例会(6月)	21日	6日
第3回定例会(9月)	27日	6日
第4回定例会(11・12月)	21日	6日
令和5年 第1回定例会(2・3月)	24日	6日
合 計	93日	24日

16 議会事務局の組織

定 数 8 人

現 員 数 6 人 (男4人、女2人)





深谷市イメージキャラクター
ふっかちゃん

郷土の英雄
畠山重忠
埼玉・深谷市